

多摩ボランティアセンターについて

2019 年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 （橋本 到 多摩ボランティアセンター長）・・・・・・・・・・	86
2019 年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計・・・・・・・・・・	89
2019 年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー・・・・・・・・・・	90
2019 年度 多摩ボランティアセンター活動の報告・・・・・・・・・・	94

多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2019 年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長 橋本 到

2019 年度、多摩ボランティアセンターでは、前年度に引き続き、2009 年の創設以来の二つの方針——「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」「地域との絆の強化」のもと、数多くの成果をあげることができました。2020 年 3 月に入って、7 つの企画が新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止・延期となったものの、実行されたイベント数は 32 で、昨年度を 2 つ上回りました。また、種々の活動で、その企画・実行を中心的に担ってくれる学生スタッフも 49 人を数え、倍増した前年度の人数を維持できました（昨年 50 人）。

多摩におけるボランティア活動は、大まかに言えば、大学の立地する相原の地域支援と遠隔地の被災地支援（気仙沼、熊本）の二つに分かれます。

相原での活動では、独自企画のイベントである地域交流会「あいほら想いの竹カフェ」が、学生スタッフの総力を挙げて行われました。この企画は、2017 年から始まり、相原まちづくり協議会から補助金をいただき大学連携事業として続けられているものです。年度内 3 回の開催予定のところ、3 回目（3 月 10 日）は、感染拡大に伴い惜しくも開催直前での中止となりました。第 2 回目は、地域発の「相原の竹あかりプロジェクト」と連携し、初めて野外の相原中央公園において開催し、晴天の空の下、地域の方々と一緒に工具を使って相原自生の竹を加工してイルミネーションを作り、飛び込みの方も交えて、盛況のうちに終わりました。この他にも相原には、ボランティアセンターを介して学生が関わる多くの企画があります。郷土の詩人八木重吉記念館の墓地清掃、小中一貫校町田市立ゆくのき学園や「子どもセンターばお」における子供たちとの交流、介護老人福祉施設ヴィラ町田への慰問、特別養護老人ホーム第二清風園（薬師台）のお祭りのお手伝い、東京医科大学八王子医療センターでの「緊急医療救護所訓練」参加など、地域の文化、高齢者、児童、障害者に対する支援、救護など幅広い活動に参加したほか、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」（町田全域）では、他のボランティア団体との交流の輪を広げつつ、その絆を深めることができました。こうした学生スタッフの精力的な活動は、その領域や人脈を広げており、学生自らの町づくりに関する生きた学びとなるとともに、地域からも大きな信頼や期待を寄せられています。

被災地支援としては、二つのチームがそれぞれ、東日本大震災、熊本地震の被災地である、宮城県気仙沼市（2015 年から継続）と熊本県益城町で活動を行いました（同 2016 年から）。被災から時間がたっているため、所謂瓦礫撤去のような活動はなく、継続的に被災地を見舞い、被災地の方と一緒にできるレクリエーションなどの交流を行い、また、一方で、現

地の複雑な実情はもとより、災害が他人事でなく、常に助け合い、寄り添うことの大切さを学びました。

気仙沼市で活動を行う「チーム気仙沼でつながり騎士（ナイト）」は、例年お手伝いさせていただいていた大谷海岸花火大会が現地防潮堤工事の都合で中止になったのを受けて、急遽、5月にプログラムを変更しました。8月28日から29日にかけて、南気仙沼内ノ脇復興住宅での清掃のお手伝い、住民の皆さんとの交流、大谷学童保育センターでの子供支援といった活動とともに、復興住宅と気仙沼社会福祉協議会本吉支部で、復興に携わられている方々のお話を通じて、短い時間ながら、支援の実行と現地での学習を組み合わせることができました。集落間での復興の足並みの違いや一度壊れたコミュニティーを新たに立ち上げる難しさなどは、やはり現地に行かないとわからないものですが、今後の活動に向けた貴重な材料ともなりました。また、帰途に着く間際には、三浦友幸様（一般社団法人プロジェクトリアス代表）から、震災後の大谷海岸がどのように意見の対立を乗り越え、行政を動かして海岸の景観保全を実現できたか、お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただきました。

「チームたまモン」は、予定していた二次隊が新型コロナウイルスの感染拡大のために中止になりましたが、8月19日から22日にかけて、一次隊が、益城町の木山仮設団地を中心に支援活動を行いました。仮設団地には、仮設の統廃合、復興住宅への人の移動、移動が難しく孤立する高齢者の存在など、様々な問題が存在します。益城町社会福祉協議会では、そうした木山を取り巻く状況を教えていただきました。そして、現地を見守るYMCAや住民の皆さんの協力も得て、昨年までの子供支援に加え、年配の方々との交流も行い、ボッチャやミサガ作りなど老若ともに楽しめる企画を実行しました。また、例年通り、被災地との寄り添いを保つべく、益城町のお茶屋の富澤さんと相原のカトウファームさん、ゆめ工房さんとのコラボで開発した「益城町を応援しなく茶クッキー」ならびに「同プリン」を、学内の多摩祭、竹カフェ、堺市民センター祭、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」などで販売し、ささやかながらその収益を現地に寄付しました。益城の移動図書館からもらったひまわりの種を多摩キャンパスで育てる「はるかひまわりプロジェクト」もこうした寄り添いの一つとして継続しました。

ボランティア活動においては、支援や交流のみならず、それを広く発表し、手を携えるべく活動の輪を広げていくこともまた大切です。学内では、10月に「夏の被災地活動報告会」、12月には「学生ボランティア2019年度活動報告会」にて、意見の交換や相互の啓発を行いました。学外では、2月にイオンモール多摩平での報告会で、中央、明星、実践女子、首都大学東京の各大学の学生とともに、気仙沼チームの学生代表が登壇し、活動の模様をプレゼンしました。その際、プレゼンに先立って同チームが現地の味噌・海産物を使った即席味噌汁を会場にて販売し完売しました。これは熊本チームのクッキー販売のやり方を取り入れての活動になりますが、いずれのチームにおいても、事態の急変や現地の要望に注意し、これまでの活動を振り返り、企画を適切に組み直す力を増してきたことは、ここ

二年強く感じるようになったことです。熊本チームが、2月6日に一般財団法人学生サポートセンターの助成事業表彰式で、東日本30チームのうちの3チームに選ばれ表彰されたことも、その証左かと思います。また、学生スタッフには、18年度に卒業後、地域の社会福祉関連の職を選んだり、現役生でそれを志す者がおり、センターでの活動が、学生のキャリア形成に及んでいる様子も見受けられます。

こうした成果は、まずもって学生たちの真摯な取り組みと充足感がなければ得られませんが、これらは、ボランティアセンターの課長始め、課員さんによる細やかなサポートに負うところも大きい。ボランティアの発意にせよ、イベントの内容にせよ、センターでは、あくまでも学生の自由な発想と行動力を生かしながら、企画の実現に向けて援助や調整の協議を繰り返しましたが、これは学生とセンターの相互信頼がなければできないことで、それがこの二年の間に順調に構築されていったことを感じています。

この報告を作成している時点で、新型コロナウイルスは感染拡大の最中で、まだ出口は見えませんが、学生スタッフは新年度に向けて新しいメンバーを募集し、これまでのノウハウを伝達しなければなりません。いうまでもなく現下の状況では困難が予想されます。また、いずれは、この病疫に由来する新たなボランティアの需要に対応することも課題として上がってきます。そして、さらに、もう一つの大きな課題として、被災地支援の継続に直結する財源の安定化があります。気仙沼支援、熊本支援とも、幸いなことに、それぞれ、この二年間を通して、Yahoo!基金、日本財団（Gakuvu）から、そして、両支援とも本学の「地域にスマイルを届けよう活動助成金」から、助成をいただくことができました。ただ、被災地での活動を次年度以降も安定的に継続できるよう、財源の面で多少とも仕組みが整えられることが望ましいと切実に感じました。

ボランティアセンターには、先に触れたような課題のほか、イベントごとにその時々で発生し、解決しなければならない課題も常時ありますが、これを極力解決し、イベントをしっかり実行し、内容の充実度を高め、それを内外に発信することにかけては、この二年の間に一連の流れが出来上がっていく手応えを感じることができ、特に任期後半のこの一年について言えば、現場に足を運んでも、余計な心配をせずに活動を見守ることができました。もちろんこれらは、まずもって多摩ボランティアセンターに関わった学生、それに、学生を支える職員の皆さん全員の奮闘の賜物ですが、さらに、歴任教職員が築いてきたものを継承できてはじめて可能になっていることも記しておきたい。深く感謝するとともに、多摩ボランティアセンターが、次期センター長のもとで、さらに着実な歩みを続けながら、一段と大きく発展することを祈念したい。

2019年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他（人）	相談数（件）※	開室日数（日）
4月	79	73	6	64	20
5月	62	52	10	50	19
6月	28	14	14	14	20
7月	37	23	14	23	22
8月	15	2	13	23	22
9月	21	17	4	14	20
10月	41	27	14	26	23
11月	48	33	15	29	20
12月	18	18	0	16	19
1月	24	19	5	19	17
2月	9	5	4	4	18
3月	10	6	4	6	18
合計	392	289	103	288	238

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2019 年度 ボランティア支援プロジェクト イベントカレンダー

月 日	曜 日	イベント・講座・訪問先	概 要	参加者数
5 月 13 日	月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
5 月 17 日～10 月 1 日	－	はるかのかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス	被災地支援の一環として、多摩キャンパス宇宙の風記念モニュメント周辺で「はるかのかのひまわり」を育成	24 名
5 月 19 日	日	第 6 回チャレンジ防災	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加	9 名
5 月 25 日	土	町田市生涯学習センター利用者交流会	町田市生涯学習センターの第 6 回利用者交流会	11 名
6 月 15 日	土	ヴィラ町田傾聴ボランティア & Voice of Winds 演奏会	吹奏楽サークル Voice of Winds による演奏と傾聴ボランティア	31 名
6 月 29 日	土	―相原 11 地区協議会大学連携事業― 第 7 回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Café にて、相原地域の方々との交流会	16 名
6 月 29 日	土	第 1 回災害医療ボランティア研修 ～トリアージ編～	他大学と合同で行う災害時の対応法についての研修会	8 名
6 月 30 日	日	たまびよ～七夕飾りを作ろう！！～	子どもセンターばおにて、子ども向けの七夕企画を実施	5 名
7 月 6 日～7 月 7 日	土～日	第 34 回堺市民センター祭り	コラボクッキーの販売	11 名
7 月 8 日	月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
8 月 3 日～8 月 4 日	土～日	八王子まつり山車曳きボランティア	八王子まつりでの山車巡行	1 名
8 月 19 日～8 月 22 日	月～木	熊本被災地支援活動（第 1 次隊）	益城町仮設団地での子ども・高齢者支援	9 名
8 月 25 日	日	ヴィラ町田夏祭りボランティア	ヴィラ町田夏祭りの運営補助	1 名
8 月 27 日～8 月 29 日	火～木	宮城県被災地支援 ～気仙沼でつながり騎士～	宮城県気仙沼市で学習支援や清掃、交流会を実施	12 名
10 月 5 日	土	第 2 回災害医療ボランティア研修 ～応急手当と搬送編～	他大学と合同で行う災害時の対応法についての研修会	2 名
10 月 6 日	日	東京医科大学八王子医療センター緊急医療 救護所訓練	八王子医療センターでの医療対応訓練	7 名
10 月 10 日	木	2019 夏の被災地ボランティア活動報告会	気仙沼でつながり騎士、チームたまモンによる被災地ボランティア活動報告会	25 名
10 月 14 日	月	パリコレッ！ 芸術祭 2019 竹のわっ！	町田パリオで開催されたイベントに参加	2 名
10 月 19 日	土	第 72 回自主法政祭多摩地区	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	10 名
10 月 27 日	日	第二清風園ハロウィンフェスティバル	第二清風園ハロウィン祭りに参加	13 名
10 月 27 日	日	鶴川 de ハロウィンフェスティバル	鶴川駅前で開催されたハロウィンイベントの運営支援	2 名
11 月 1 日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	3 名
11 月 10 日	日	たまびよ～秋の工作～	子どもセンターばおにて、子ども向けの工作企画を実施	4 名
11 月 10 日	日	相原スポーツ広場～ FUNDAY ～	地域のスポーツイベントの運営補助	5 名
11 月 17 日	日	―相原 11 地区協議会大学連携事業― 第 8 回地域交流会「竹カフェ」	相原地域の方々との交流会	13 名
11 月 23 日	土	イザ！カエルキャラバン！ in リンクス櫛田	障がい者支援施設で開催された防災イベントに参加	15 名
12 月 1 日	日	第 13 回市民協働フェスティバル まちカ フェ！	町田市内の活動団体が集い、活動の紹介展示やワークショップを行い交流を深めるイベントに参加	11 名
12 月 6 日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	2 名

講師、協力先	備 考
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
はるかひまわり絆プロジェクト・法政大学美術研究会	命の尊さや復興の象徴として広まった「はるかひまわり絆プロジェクト」に賛同し、キャンパス内にてひまわりを育成、種を収穫した。
小山内裏公園・八王子、町田、南大沢警察署・八王子、町田消防署・町内会・自治会・町田市社協	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加し、非常食ブースの運営を担当した。また、イベント全体の運営補助も行った。
町田市生涯学習センター	町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが他団体の学生とともに分科会を企画・運営した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	吹奏楽サークル Voice of Winds のメンバー 28 名による演奏会、学生ボランティア 3 名による傾聴ボランティアを行った。
Slow World Café (多摩キャンパス)・明月堂	相原地域の方々をお招きした交流会。「相原の地域資源」をテーマにグループワークと貿易ゲームを行い、参加者同士の価値観の共有を図った。
南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ・ボラネット多摩・明星大学	多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。他大学の学生たちとともに、DMAT 隊員による講義と実技講習を受け、トリアージについて学んだ。
子どもセンターばお	子どもセンターばおで、子ども向けの工作企画を実施。七夕飾りの折り紙工作を行った。
堺市民センター・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	相原駅近くにある堺市民センターにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売。当日の舞台部門の司会・運営補助も行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
元町連合町会・八幡上町町会・大学コンソーシアム八王子	八王子まつりの山車曳き子として、八王子駅周辺甲州街道を巡行した。
熊本 YMCA・益城町社会福祉協議会・お茶の富澤。	木山仮設団地にて、子ども向けの遊び企画と高齢者向けの交流企画を実施した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	介護老人福祉施設ヴィラ町田にて、夏祭りの会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。
気仙沼市社会福祉協議会・ボランティアステーション in 気仙沼・気仙沼市内ノ脇住宅・大谷学童保育センター・気仙沼向洋高校旧校舎	気仙沼市内で、学童保育センターの児童の学習支援や、市営住宅の清掃活動を行い、地域の方をお呼びして交流会を開き、被災当時の状況や現在の復興状況などお話を伺った。また、気仙沼向洋高校旧校舎を見学した。
南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ・ボラネット多摩・明星大学	多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。第 2 回は応急手当と搬送について学んだ。
八王子医療センター・地域交流センター	被災地で活動する「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」のメンバーを中心に、八王子医療センターでの医療対応訓練に参加した。
多摩ボランティアセンター	被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」が夏の活動について報告し、意見交換を行った。
町田パリオ・相原にぎわい創生プロジェクト	町田パリオで開催された竹にまつわるイベントに参加。商品販売の補助業務を行った。
町田ゆめ工房・お茶の富澤。	多摩キャンパスの学園祭にて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンの活動紹介パネル展示を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設・社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催された、ハロウィン祭りの運営支援を行った。
鶴川市民センター・つる川サポーター元気 UP 実行委員会・鶴川地区協議会	町田市鶴川にて開催された、ハロウィンイベントの運営支援を行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
子どもセンターばお	子どもセンターばおで、子ども向けの工作企画を実施。折り紙リースの作成のほか、チームたまモンが販売する「かぶせ茶プリン」のラベルを子どもたちに描いてもらった。
相原中央公園・相原スポーツクラブ委員会	相原地域のスポーツイベントに参加。「キッズ走り方教室」のブースを担当し、学生スタッフが子どもたちに走り方のコツなどを教えた。
相原中央公園・中野屋	「竹あかりの街あいはいら」と協働して、地域の方々と竹灯籠作りなどを実施。東京家政学院大学をお招きし、地域と大学との連携を深めた。
リンクス桐田	障がい者支援施設「リンクス桐田」で開催された防災イベントの運営補助として、被災地で活動する「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」のメンバーが参加した。
町田市市民部市民協働推進課・町田ゆめ工房・お茶の富澤。・カトウファーム	学生スタッフが考案した益城町産茶葉×相原名産品のコラボ商品「かぶせ茶プリン」と「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。

12月20日	金	学生ボランティア 2019 年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	9名
1月25日	土	関東ボッチャ選手権大会	障がい者を対象としたスポーツイベントの運営補助	3名
2月6日	木	学生ボランティア団体助成事業表彰式	学生ボランティア団体助成事業の表彰式と懇親会に参加	1名
2月15日	土	第6回大学生ボランティア写真展&イベント	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	7名
2月29日～3月2日	土～月	熊本被災地支援活動（第2次隊）	益城町仮設団地での子ども・高齢者支援	中止
3月9日	月	あいほらほうとう&コンサート	相原地域の交流企画に参加	中止
3月10日	火	—相原11地区協議会大学連携事業— 第9回地域交流会「竹カフェ椿」	相原地域の方々との交流会	中止
3月10日	火	和紙キャンドルガーデン—TOHOKU2020—	東北の方々のメッセージを届けるイベントの運営支援	中止
3月20日	金	たまびよ～春の工作～	子どもセンターぱおにて、子ども向けの工作企画	延期
3月26日	木	学生活動報告会【ガクマチ EXPO】	町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会	延期
3月29日	日	相原さくらまつり	竹灯籠をはじめとする竹のオブジェの制作と点灯式	中止

多摩ボランティアセンター	多摩キャンパスの学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について報告した。
東京ボッチャ協会・町田市社会福祉協議会	町田市で開催されるボッチャの関東大会に参加し、受付や審判などの運営補助を行った。
一般財団法人 学生サポートセンター・国立オリンピック記念青少年総合センター	「学生ボランティア団体助成事業」にチームたまモンが採択され、表彰式と懇親会に参加した。
イオンモール多摩平の森・多摩地区 5 大学・日野市社会福祉協議会	多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する報告会とパネル展を行なった。また、物産展ではミソスープの販売を行った。
熊本 YMCA・関西学院大学	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
あいほら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
特別養護老人ホーム椿・明月堂	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
東京ミッドタウン・多摩大学	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。
子どもセンターぱお	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み延期となった。
町田市生涯学習センター・桜美林・相模女子・サレジオ高専・さがまち学生 Club・大学コンソーシアム八王子	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み延期となった。
さがまちコンソーシアム・相原にぎわい創生プロジェクト・東京家政学院大・多摩美術大・東京造形大・地域交流センター	新型コロナウイルスの国内での発症状況を鑑み中止となった。竹灯籠のオブジェの展示も中止となった。

1. 八木重吉記念館清掃ボランティア

1. 日 程 ①2019年5月13日（月）
 ②2019年7月8日（月）
 ③2019年11月1日（金）
 ④2019年12月6日（金）

2. 場 所 八木重吉記念館

3. 概 要

多摩キャンパスから徒歩 10 分ほどの場所にある、相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

4. 学生参加者数 ①3名 ②3名 ③3名 ④2名

5. 参加学生の感想

（5/13）

約半年ぶりの活動だったので、落ち葉もたくさん積もっていました。3 人で丁寧に行うことができました。館長さんにご挨拶に行った際、新しく小屋ができて、そこでお話をしてくださるようになるとのことだったので、そのような機会も設けられたらと思います。

社会学部社会学科 2 年 梶原 綾乃

（7/8）

雨が多く、蚊が大量に発生していました。今回は、草も落ち葉も多かったです。みんな、てきぱきと動いていて、すごいかだったので良かったです。入口の木は切らないようにと言われたが、次の活動まで時間が空くので、様子が心配です。

社会学部社会学科 2 年 梶原 綾乃

草むしり自体は順調であったが、一部草木は生い茂りすぎており素手での対応は困難なため、今回は鉋などが必要だと思いました。

経済学部経済学科 2 年 川越 宗紀

（11/1）

最後の活動日から時間が経っていましたが、それほど落ち葉は多くなかったため、足場周りなど、とてもきれいに片付けました。初めて八木さんのお宅へご挨拶に伺うこともできて良かったです。秋は木の葉が落ちてきたタイミングから始めるのが良いと思いますが、今回台風での延期も多かったため、曜日を二つ以上設けるなどの工夫も必要だと感じました。

社会学部社会学科 1 年 山中 一智也

快晴でとても暖かく、気持ち良くお掃除できて良かったです。またボランティアに参加するにあたって八木重吉さんのことを知り、またその詩を読むことはとても勉強になり、良い経験になりました。

現代福祉学部臨床心理学科 1 年 高島 夕季

（12/6）

今回はただ掃除するだけでなく、献花したり、そのあと合掌をしたりしたことで、よりただの清掃ではなくお墓参りに行くという実感を持てたのが良かったと思います。

社会学部社会学科 1 年 山中 一智也

2 回目の参加だったのですが、前回よりも積極的に清掃に参加できたかなと思いました。前回よりも落ち葉が多く、大変だったのですが、とてもやりがいがありました。

現代福祉学部臨床心理学科 1 年 高島 夕季



(5/13) 半年ぶりの活動



(7/8) 草や落ち葉がたくさん



(11/1) 快晴の中行われた



(12/6) 今後も継続して活動する予定

2. はるかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス

1. 日 程 2019年5月17日(金)～10月1日(火)

2. 場 所 多摩キャンパス 宇宙の風記念モニュメント周辺

3. 概 要

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を育て、命の尊さや被災地復興について考える「はるかのひまわり絆プロジェクト」に参加。多摩キャンパスでひまわりの育成を行った。

4. 学生参加者数 24名

5. 参加学生の感想

(5/17)

今年も無事『はるかのひまわりプロジェクト』を始められて良かったです。熊本支援チーム以外の学生スタッフも参加してくれました。今後も学生同士で協力して大きなひまわりを咲かせたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 富所 美羽

今年度も無事ひまわりの種植えを行えたことをとても嬉しく思います。ひまわりが順調に生育し、ひまわりを通して命の尊さに気づくきっかけになればと思います。

経済学部経済学科2年 小森 滉太

1日の内に必要な作業を少人数で終わられて望ましい。この企画は学校全体にはあまり知られていないと思われるので、何かしらの形で存在と意義を広くPRし、ひまわりだけでも多くの人に見てもらいたいと思う。

経済学部経済学科2年 川越 宗紀

(7/30)

雑草が生い茂っていたものが、活動を通してきれいになり、とても清々しい気持ちになりました。夏には大きなひまわりが咲き、学生たちの目に留まればなと願っています。

経済学部経済学科2年 小森 滉太

思った通りに暑かったし、汗もすごい出たけど、いいことをした時の汗だから良いものだと思います。みんなで協力して早く終われて良かったです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道

暑い中での活動だったが、無心で雑草を抜き、頑張った。今年のひまわりは昨年に比べて細いらしいが、元気に成長してほしい。

社会学部社会学科1年 佐藤 慶宗

(10/1)

天候の影響で昨年よりひまわりの育ちが悪く心配でしたが、無事種がとれて良かったです。交代で水やりをやったかいがありました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 海老沢 真由

毎週水やりをしてみんなで育てたひまわりが、花を咲かせた時はすごく嬉しかったです。この嬉しさやひまわりの種が多くの人に届くことによって広がっていったら良いなと思いました。

社会学部社会政策科学学科1年 中來田 聡美

毎週水やりをしていく中で、ひまわりの成長していく様子がわかり、やりがいを感じました。このひまわりの活動が、被災地のことを知ってもらうことに役立てばいいなと思うとともに、様々な支援活動の形があるのだなということを改めて知りました。

社会学部社会学科1年 佐藤 慶宗





(5/17) 土を耕し、種まきの準備



(7/30) 草むしり



(8/21) 無事開花



収穫された種

3. 八王子市・町田市連携イベント 第6回チャレンジ防災

1. 日 程 2019年5月19日(日)

2. 場 所 都立小山内裏公園

3. 概 要

地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加。非常食の試食体験ブースの運営を担当した。

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

私たちは桜美林の学生の方々と連携し、非常食を支給する活動を行いました。初めての経験のため、非常食の配分が大ざっぱで、本来最も盛えていなければならないお昼時には既に在庫が尽きてしまっていたので、来年があれば改善していきたいと考えています。それ以外は皆げがもなく、無事に終えることができて良かったと思います。

社会学部社会学科2年 児玉 務



初めてのボランティアだったので不安もあったが大きな問題なく進めることができて良かったです。災害時の非常食の試食の配膳ということだったが、自分は何の予備知識もなく行ってしまったので、事前にアルファ米についてなど調べて軽く頭に入れておくべきだったと思いました。お客さんにも“非常食”としてのアピールがもっとできれば良かったです。

社会学部社会学科1年 菅野 明日美

実際に被災地でどのように非常食が振る舞われているのか体験できて良かったです。まだ被災地の現地を訪問した経験がないので、もし、そういった場合にもどういう風に対応すれば良いのかわかりました。テンポよく桜美林の方とも連携して配膳を行え、大学の壁もなくて良かったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和



アルファ化米を使ったカレー作り



あっという間に品切れとなった

4. 町田市生涯学習センター利用者交流会

1. 日 程 2019年5月25日(土)

2. 場 所 町田市生涯学習センター

3. 概 要

町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「オレンジカフェ～考え方は人それぞれ～」を企画・運営し、自分の価値観や人の価値観について、ゲームを通して交流を行った。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

お話をいただいてから、何回も会議を重ね、無事に当日を迎えられて安心しました。シミュレーション(学生のみ)でやった時とは違った意見が出てきて、とても面白かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 鈴木 琴音

用意されていたショートストーリーがなかなか面白かったので、次はぜひ自分も製作に参加したいと思いました。

社会学部社会学科4年 鈴木 史哉

準備段階から参加させていただいたが、リハーサルから本番まで、学生以外の方の話も聞けて新たな発見があったことが、とてもためになったと思います。普段話さないような人と接することで、新しい考え方を身に付けることができ、良い体験になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 松本 大夢

本当に人によって、様々な意見や価値観があるということがわかりました。自分の未熟さも実感したし、他の人の発想力や価値観に驚かされました。こういった活動にこれからもなるべく参加していきたいです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



全体交流会



人それぞれの『価値観』について話し合った

5. ヴィラ町田傾聴ボランティア & Voice of Winds 演奏会

1. 日 程 2019年6月15日(土)

2. 場 所 介護老人福祉施設ヴィラ町田

3. 概 要

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー28名による演奏会と、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。

4. 学生参加者数 31名

5. 参加学生の感想

施設の方々にも非常に楽しんでいただけたようで、とても良かったです。我々スタッフ側としても、けが人も出ず安全に設営を進めることができ安心しました。

社会学部社会学科2年 児玉 務

毎年行っているということもあり、今年も何事もなく終えることができました。利用者の皆さんが「感動した。」「また来てね。」と言ってくださったのが特に印象に残りました。また来年もやっていきたいと思いました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

高齢者施設に行きボランティアをするというのは、人生で初めてだったので良い経験になりました。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



Voice of Winds による演奏会



全3曲を披露

6. 災害医療ボランティア研修

1. 日 程 ①第1回 2019年6月29日(土) ～トリアージ編～
②第2回 2019年10月5日(土) ～応急手当と搬送編～

2. 場 所 明星大学 日野キャンパス

3. 概 要

多摩地区の大学と地域が連携した「多摩ボラネット」主催の災害医療ボランティア研修。明星大学や中央大学など、他大学の学生たちとともに、DMAT 隊員による講義と実技講習を受け、ボランティア活動中に発生した緊急時の対応法について学んだ。

4. 学生参加者数 ①8名 ②2名

5. 参加学生の感想

(6/29)

災害が起きた際、トリアージを行うことがいかに大切か、実習を通して学ぶことができました。また、トリアージを行う中で、傷病者の区別がつきにくい場面が多々あり、難しいと感じました。今回の活動をふまえた上で、次回の災害医療ボランティアにも参加していきたいです。

社会学部社会学科2年 太田 知希

前回医療センターで行った内容を、さらに深く学ぶことができました。『トリアージ』という方法がどれほどの範囲で負傷した人々を支えることができるのかを考えさせられました。

社会学部社会学科2年 児玉 務

一年以内に大きな地震が70%以上の確率で起こると予想されている今、一人でも多くの人が救われるためにはこうしたトリアージ等の知識をたくさんの人にも知る必要があると感じました。医療従事者だけでなく、もし自分の住む地域で災害が起こった時にこの研修で得た知識を生かせれば、と思いました。

社会学部社会学科1年 菅野 明日美

医療に関する知識がなかったため、とても有意義な時間となりました。新しく、トリアージというものを理解し、実際に災害が起きた地域や、身近なところで活かせることを

知ったので、もっと積極的にこういった活動に参加して知識を増やしていけたらなと思いました。実習などを通して、実際の現場でどのように動いて、声掛けをしづらいのか学べて、さらに他大学の人たちとのつながりも持てたので良かったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和

トリアージの意味がわかりました。災害時の患者の優先順位をつける方法がわかって良かったです。次回も日程が合えば参加したいです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道

実際にけがの演技をして、いろんな症状の可能性のあることに気づき、今後も知識をつけたいと思うきっかけになりました。楽しみながらできたのと同時に、学ぶ意欲につながったのは思ったより良かったです。

経済学部国際経済学科1年 鈴木 響香

トリアージとは何か、何の役に立つのか、どのような手順で行うのかを勉強しました。実際に災害が起きた場合、どのような行動が適切なのかを身体を使って学ぶことができましたので良かったです。トリアージを実践してみて、負傷者の区分が難しく、特に呼吸が正常であるかの確認はなかなか上手いかず苦戦しました。しかし同時に負傷者に対し、どのように対応すれば良いのか、どのような声掛けがふさわしいのかなど様々なことも学べました。この研修を機に災害と救助に関するより深い理解ができれば良いなと思いました。

社会学部社会学科1年 柳澤 由伸

ボランティア活動に役に立つ! 実技講習が中心
第1回 災害医療ボランティア研修
トリアージ編
～ボランティア活動に活かせる災害医療知識～

ボランティア活動中に発生した緊急時に周囲の人(傷病者等)に手を差し伸べることが出来ますか?
自分の安全を守れますか?

ボランティアと緊急時の対応を災害医療で学ぶ

日 時 令和元年 6月29日(土) 9:00～12:30
場 所 明星大学 32号館206教室
参加費 無料 参加募集人員 100名(定員)
申込先 ボラネット多摩 各大学のボランティアセンター

<内容>
① 災害医療について
② トリアージを学ぼう
③ トリアージをやってみよう

講師 災害医療の経験者で活躍したDMAT隊員
災害現場で学んだ、命を守る方法を伝えます

主催 南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ
協力 ボラネット多摩(多摩地区の大学と地域によるネットワーク)

10月 第2回災害医療
ボランティア研修
5 時間 9:00～12:30
日 場所 明星大学 32号館206教室
土 参加費 無料 定員 100名(定員)
開 申込 各大学のボランティアセンター
催 応急手当と搬送編
ボランティア活動に活かせる災害医療知識

災害現場の経験者で活躍したDMAT隊員
災害現場で学んだ、命を守る方法を伝えます

主催 南多摩保健医療圏災害医療ワーキンググループ
協力 ボラネット多摩(多摩地区の大学と地域によるネットワーク)

とても実践的に行うことができて、楽しかったです。実際にトリアージを行う時には緊張感があり、現場でどうすべきか、学ぶことができたと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 佐藤 雅

(10/5)

前回のトリアージ編に続けて参加しました。今回学んだ搬送方法や応急手当は、日常生活においても役立つので参加して良かったと感じました。

社会学部社会学科 2 年 太田 知希

前回のトリアージに引き続き、各搬送方法を学びました。元 DMAT の方からのお話もあり、大変貴重な体験でした。

社会学部社会学科 2 年 児玉 務



(6/29) トリアージについて学ぶ



(6/29) 実践的に訓練を行った



(10/5) DMAT の方からの講義を受けた



(10/5) 実技講習の様子

7. -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 7 回地域交流会「竹カフェ」

1. 日 程 2019 年 6 月 29 日 (土)
2. 場 所 多摩キャンパス EGGDOME2 階 Slow World Café
3. 概 要

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。今回はテーマを「これだけは譲れない！相原の地域資源」とし、ワークショップで「相原の地域資源」について意見を交換しながら交流し、その結果を競売ゲームの中で発表、参加者全員の価値観や意見を共有した。

4. 学生参加者数 16 名

5. 参加学生の感想

今回で 7 回目となる竹カフェを無事に終えられて良かったです。学生もたくさん参加してくれて、地域の方と楽しみながらグループワークをしてくれていて良かったなと思いました。今後も頑張っていこうと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 鈴木 琴音



相原町の様々な人と親密になれた。会話の中で、自分がまだ知らないことを知れたのでとても有益でした。

社会学部社会学科 4 年 鈴木 史哉

私は、今日がボラセンでの初めての活動だったので、どんな感じなんだろうと思っていましたが、とても楽しく参加させていただきました！参加してみて、相原という地域は人々のつながりが強く様々な活動が行われているすてきな町なんだと実際ゲームや会話を通して伝わってきました。これを機に他のボランティアにも積極的に参加してみたいなと思いました。

社会学部社会学科 2 年 矢藤 日南乃

計画の段階からスムーズにできたのが良かったです。当日も今まで以上に楽しくアットホームな雰囲気で開催できたのが嬉しかったです。これからもこの空気感を大切に、さらにブラッシュアップし、後輩にも伝えていけるように頑張らないと、と思える竹カフェでした。

社会学部社会学科 2 年 吉井 妙英

今回司会を担当させていただきましたが、参加者の皆さんが優しく温かかったおかげでリラックスしながら進行することができてとてもやりやすかったです。改めて地域の人に支えられているなあと身をもって感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2 年 宮下 なつ

相原の方々とお話ししてみて、自分があまり相原について知らないのだな、と思いました。知らない分、新鮮なことをたくさん知ることができて、とても良かったです。“今度そこに行ってみよう”と思うこともできました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 佐藤 雅



学生スタッフによる司会進行



6つのグループに分かれてゲームを行った



学生スタッフを含めて 30 名が参加



相原の地域資源について各チームが発表した

8. たまびよ

1. 日 程 ① 第1回 2019年6月30日(日) ～七夕飾りを作ろう!!～
 ② 第2回 2019年11月10日(日) ～秋の工作～

2. 場 所 子どもセンターばお

3. 概 要

町田市の子どもセンターばおにて、子ども対象の工作企画を学生スタッフが考案。

第1回(6/30)は七夕にちなんで、輪飾りや十字星、織姫と彦星の人形などの工作を行い、幼児と保護者合計17名が参加した。

第2回(11/10)は秋のリース作りと、チームたまモンが「まちカフェ!」で販売する「かぶせ茶プリン」のラベルイラストを、参加した子どもたちにそれぞれ描いてもらった。幼児と保護者合計16名が参加した。

4. 学生参加者数 ①5名 ②4名

5. 参加学生の感想

(6/30)

自分たちで企画をし、実行するのは今回が2回目です。少しずつ慣れてきたため、前回よりも余裕をもって子どもたちと工作をすることができました。今回のイベントで課題ややりたいことが見えてきたので次回につなげていきたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

子どもセンターばおで、七夕の工作として、笹に飾れるようなものを3種類用意しました。今回は、今までやってきた中で一番、親御さんとお話を上手にすることができました。自分の作った物を、すべて笹に飾ると、子どもたちも達成感を感じやすいように思えました。はさみを使う際、どこまで手を出して良いのかの判断が難しかったです。今回も、楽しかったし、子どもたちが可愛かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 古沢 公実

全体を見渡して足りないところをフォローする視点が抜けていたため、今後の活動の際には注意しようと思います。今回、作品の1つに輪飾りを用意したが、ばおの館長さんによると、「ああいった簡単に作れて成果が見えやすいものは、大人も子どもも夢中になりやすいため、今後も凝った内容の工作と単純な工作の2～3種類程度を用意した方が良い」ということでした。今後の活動の参考にしたいです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 渡邊 萌香

(11/10)

別のイベントも被っている中、16人の子どもと親御さんが来てくださいました。皆さんリース作りが楽しいとおっしゃってくださったので私的には大成功でした。今回ボランティアに参加してくれた1年生も楽しかったと言ってくれていたため、今後も続けていければ良いなと思いました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 菊地 映梨香

すべてが楽しかったです。今回は準備をすべて先輩がしてくれたので、私もそこからできるようにしたいと思いました。

社会学部社会学科1年 林 みほ

初めてたまびよの活動に参加して、とても良い経験になりました。自分が想像していたよりも子どもたちが来てくれて、だんだんと慣れてお話してくれたり、親御さんともいろいろなお話ができて楽しかったです。子どもセンターばおさんは、子どもたちにとっても親御さんたちにとっても大切な場所で、そこに学生がイベントを企画して協力して実施することは、双方にとっても良い刺激になると思いました。また機会があれば参加したいです。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳



(6/30) 完成した七夕飾り



(6/30) 親子でご参加いただいた



(11/10) 子どもたちと遊びながら工作



(11/10) 完成したリース

9. 第34回堺市民センター祭り

1. 日 程 2019年7月6日(土)～7月7日(日)

2. 場 所 堺市民センター

3. 概 要

相原駅近くにある堺市民センターで開催された「第34回堺市民センター祭り」にて、熊本支援を広める活動を地域の方に知ってもらうため、ゆめ工房さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売し、300個を完売した。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

初日は天候が良く、たくさん人が来たのですが、二日目は雨のため人が少なかったです。小さい子には、同じ目線になり、試食を進めると、その親御さんが買ってくれることに気が付きました。先輩方はいろいろな人に挨拶をされていて、ずっと笑顔ですごいと思ったので、自分も頑張りたいです。

社会学部社会学科1年 林 みほ



初めてのボランティアで、なかなか立ち止まっていられなかったりと、大変な面もあったけれど、立ち止まってお話ししたり、買ってくれたりと楽しめました。他の団体の方々と、このボラセンのつながりが感じられて、相原の方々とコミュニケーションがとれて良かったです。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳

今日この活動に初めて参加して、物を売ることの難しさがわかりました。立て続けに売れる場面と、なかなか売れない場面がそれぞれあって、学ぶこともいろいろありました。今回、初めて被災地支援に関係したボランティアができて良かったです。

社会学部社会学科1年 乾 裕道



益城町を応援しなくっ茶！クッキー



来場者の皆さんに大好評だった

10. 八王子まつり山車曳きボランティア

1. 日 程 2019年8月3日(土)

2. 場 所 八王子駅甲州街道周辺

3. 概 要

大学コンソーシアム八王子の学生ボランティア企画で、八王子まつりの山車曳き体験ボランティアに参加。八幡上町町会の曳役衆の進行にしたがって、山車の引き綱を曳いて歩いた。山車は8月3日(土)～8月4日(日)の二日間にわたって甲州街道を練り歩き、本学学生は8月3日(土)に参加した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

とても暑い中でのお手伝いでしたが、一緒に山車を引っ張った方々に励まされ、頑張ることができました。留学生の方とも、大学の話などができて楽しかったです。お祭りの山車を引くのを見たことはありますが、実際に引くのは初めてでした。見ているよりずっと力強く、たいへん疲れることで、でもそこに携わり、祭りを引っ張る方々の力強さがそれに勝っていたため、自分も最後まで頑張ることができました。今度は自分の地元の祭りにも参加し、お神輿担ぎなどに参加し、祭りを知ってみたいです。

社会学部社会学科1年 山中 一智也



山車曳きに参加



中国人留学生の方々と交流した

11. 熊本被災地支援活動

1. 日 程 2019年8月19日（月）～8月22日（木）

2. 場 所 熊本県上益城郡益城町

3. 概 要

熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が現地支援活動を行った。

第1次隊（8月19日-22日）は、益城町社会福祉協議会の方から復興状況などについてお話を伺い熊本城を見学。その後、木山仮設団地にて、餃子作りやポッチャなど、子どもと高齢者が一緒に行える交流企画を実施した。また「益城町を応援しなくっ茶！」プロジェクトでお世話になっている製茶工場「お茶の富澤。」さんを訪問し、工場見学をさせていただいた。

第2次隊（2020年2月29日-3月2日）を予定していたが、新型コロナウイルスに関連した感染症の流行状況を鑑み中止となった。

4. 学生参加者数 9名

5. 参加学生の感想

今回の活動内容で良かったのは、やはり高齢者の方と子どもたちが一緒に参加し楽しめるプログラム作り、場作りができたことだと思います。普段は交わることのない世代同士でも、間に大学生を挟むことによってクッションにもなるし、たまにしか現地の活動ができない私たちだからこそイベントとして交流を楽しむ場が可能になったのだと思います。子どもにとっても高齢者の方にとっても、もちろん大学生にとっても違う世代と関わることでできる場があることは非常に貴重であるので、次回も多世代を意識した企画作りができれば良いなと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

今回の活動を通して一番感じたのは変化です。子どもが減っていることはもちろん、仮設団地の入居率や住民の方の人間関係も去年に比べて変化しています。この変化をうまく掴んで活動に活かすことが大切であると感じました。

経済学部現代ビジネス学科2年 石井 彰吾

実際に初めて被災した現地を訪れ、スライドで映された家が倒壊している写真や液状化現象で道路が下がっている写真などの悲惨な被害状況を見て、もしも関東で起こったら、いつか私も経験するのかなと思うと怖くなりましたし、心が痛くなりました。まだまだ誰かが力を必要としている地域はたくさんあると思います。1人でも多くの方に笑顔になってもらうためにも、一歩を踏み出していただけるお手伝いをできれば良いなと思いました。

社会学部社会政策科学科1年 木村 優海



社協の方にお話を伺う



子どもと高齢者の交流企画を実施



ポッチャで交流



「お茶の富澤。」さんを訪問

12. ヴィラ町田夏祭りボランティア

1. 日 程 2019年8月25日(日)

2. 場 所 介護老人福祉施設ヴィラ町田

3. 概 要

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて開催される夏祭りの運営支援をした。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

先日のヴィラ町田夏祭りでは、私は屋内でのアイスの販売の手伝いをさせていただきました。施設の利用者の方々に、スタッフの方はもちろん、利用者の方のご親族の方も多く参加されていて、様々な年齢層の方と交流をすることができました。販売の時には、小さい声だと届きづらい方もいらっしゃるので、声を大きめにして接する、などと高齢の方への配慮も適宜考えながら接客をするという経験をすることができました。またスタッフの方々の楽しんでもらおうという心意気、そして利用者の方々がとても楽しんでいるのが伝わってくるのも大変印象的でした。ただ、お祭りの手伝いをしに行っただけではなく、こういう企画の持つ力を実際に見ることもでき、非常に良い経験になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 廣井 友香



出店のお手伝い

13. 宮城県被災地支援～気仙沼でつながり騎士～

1. 日 程 2019年8月27日（火）～8月29日（木）

2. 場 所 宮城県気仙沼市

3. 概 要

1 日目は、気仙沼市市営内ノ脇住宅集会所で清掃活動と自治会の方々と交流会を行い、「気仙沼の魅力について」のワークショップを開催した。午後は気仙沼市社会福祉協議会の方から現在の復興状況や地域の課題についてお話を伺った後、大谷学童保育センターのお楽しみ会に参加し、子どもたちと触れ合った。

2 日目は、津波の被害に遭った気仙沼向洋高校旧校舎を見学し、被災当時の様子について学んだ。

4. 学生参加者数 12 名

5. 参加学生の感想

4 年間を通し、現地の気仙沼市が着実に復興に向けて進んでいることを感じました。私は気仙沼チームでの活動の 2 年目から参加させていただき、1 年生の頃から気仙沼市や大谷海岸の変化を見ていく中で、コミュニティの運営や支援について多くのことを学びました。また被災地から得た学びを首都圏に発信することも重要な活動だと考えています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 恩田 祐希

今回の活動で印象に残っている点、反省すべき点は多々あるが、中でも特に印象に残っているのは内ノ脇住宅での交流会です。昨年の大谷海岸での活動では困難だった住民の方々との深い交流ができ、被災地の現状や当時の状況を詳しく知ることができました。震災から 9 年近くが経過した今、被災地に求められているニーズはこうした住民の方々の心理的充足を満たすことのように思えます。この交流会だけでも現地に来て良いと感じました。

社会学部社会学科 2 年 太田 知希

今回現地に行ってわかったことは、ボランティアのニーズは瓦礫の撤去や清掃といった物理的な支援ではなく、住民同士の交流を深めることにあるということです。このようなニーズは現地に行くからこそキャッチできる確実な情報であると思いました。ボランティア活動といっても独りよがりにならずニーズに応えることの大切さを知りました。

社会学部社会学科 2 年 豊満 祐希

8 年がたった今、震災を意識し続けることが難しくなっています。いつ何時また同じような災害が起きるかわからないからこそ、東日本大震災の記録・教訓は忘れられてはいけません。そして、まだ被災地には地域コミュニティの再建などの課題も残されています。私たちにできることはそうした記録、教訓、現状をより多くの人に伝えること、そしてより私たちが主体となった活動を展開して現地の方々の心に寄り添っていくことです。ニーズを考え、形を変えながら、より今後の活動をパワーアップさせていき、少しでも力になれる活動をしていきたいと思いました。

社会学部社会学科 1 年 菅野 明日美



市営内ノ脇住宅集会所で自治会の方と交流



大谷学童保育センターで子どもたちと触れ合った



気仙沼向洋高校旧校舎を見学



交流や学習を通し、充実した2日間

14. 東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練

1. 日 程 2019年10月6日(日)
2. 場 所 東京医科大学八王子医療センター
3. 概 要

八王子市にある東京医科大学八王子医療センターにて、大規模な災害で多くのけが人が発生した場合に、病院で治療を受けるべき人の優先順位を決める「緊急医療救護所訓練」の運営訓練が行われた。学生たちはそれぞれ担当を任せられ、要救護者に対するトリアージや応急処置を実際に体験した。

この救護訓練を通じ、八王子医療センターや他大学と連携しながら緊急時の体制を確認し、協働することができた。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

実際に震災が起きた際どのような流れで傷病者を治療するのかを学ぶことができました。

今回自分はトリアージを行った傷病者の記録をする仕事を行い、一気に大勢の傷病者が運ばれてきた時は多少混乱する場面もあったものの比較的スムーズに担当業務を行うことができました。



社会学部社会学科 2 年 太田 知希

今回初めて医療訓練に参加して医療に関する知識が全くない私にも手伝えることがあるのだと知ることができました。本当に災害が起きた時にとる行動も変わってくると思ったので参加して良かったです。 社会学部社会政策科学科 1 年 中來田 聡美

災害が起きた時、医療関係の人は治療などで出動しますが、トリアージ記録は知識のない自分でもできることなので、もし本当に起きた時でもできることがあるんだとわかりました。記入された用紙を写して一覧にするだけでしたがどのグループとも連携しなくては成り立たないことだと思いました。 社会学部メディア社会学科 1 年 大島 瑞稀



担当ごとに訓練を行った



傷病者一覧表の作成

15. 2019 夏の被災地ボランティア活動報告会

1. 日 程 2019年10月10日(木)
2. 場 所 多摩キャンパス 総合棟4階 多目的室

3. 概 要

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながり騎士」「チームたまモン」の2団体が、夏休み期間中の活動について成果や今後の課題を含め報告を行い、意見交換後、先生方に講評をいただいた。

4. 学生参加者数 25名

5. 参加学生の感想

活動内容、発表内容ともにすごく成長・発展を感じました。これからもぜひ一緒に頑張っていきたいなあと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

どちらのチームも被災から年月が経ってきたことにより、ニーズが変化しているということを実感し、また現地の状況を伺うことができ、勉強になりました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 廣井 友香

どちらのチームも、震災後からの状況が変わって、課題があったので、それに今後は取り組んでいきたいと思いました。

社会学部メディア社会学科1年 大島 瑞稀

被災地の状況も変わっていくし、それと同時にニーズも変える必要があるんだなと思いました。学生が自分たちで考えて行動することに意味があると思いました。

社会学部社会学科1年 瀬合 知佳

熊本、気仙沼ともに詳しい活動報告を聞くことができ、とても良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 新井 光咲



チーム気仙沼の報告



チームたまモンの報告

16. パリコレッ！ 芸術祭 2019 竹のわっ！

1. 日 程 2019 年 10 月 14 日（月）

2. 場 所 町田パリオ

3. 概 要

町田市にある町田パリオにて、竹を使ったコンサートやワークショップ、マルシェ、アート展が行われた。参加学生は、竹に関連する商品販売の補助業務を行った。

4. 学生参加者数 2 名

5. 参加学生の感想

イベント当日はあいにくの雨でしたが、たくさんの方がイベントにいらっしゃっていました。子どもたちも多く、竹灯籠作りの体験や、楽器作りなど楽しそうに参加しているのが印象的でした。『竹』というもの 1 つでいろいろなものができるのだと、私も楽しみながら活動できた 1 日でした。 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 鈴木 琴音



『竹』が題材のイベントでしたが、町田だけでもこれだけ集まって大きなイベントになるのか！と驚きました。同じ相原のブース内では竹にドリルで穴を開ける体験ブースを行っていましたが、子どもたちに予想以上に人気があり、地域の方にサポートしてもらいながら楽しそうに竹と触れ合っている姿が印象的でした。今後の活動にも活かせる新たな発見がたくさんありました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 3 年 橋本 空



「竹」をテーマにしたイベント



多くの方でにぎわった

17. 益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売（法政祭）

1. 日 程 2019年10月19日（土）

2. 場 所 多摩キャンパス 経済学部棟 2 階 221 教室

3. 概 要

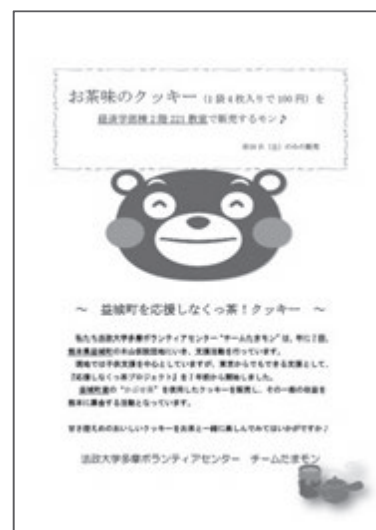
多摩キャンパスの学園祭にて、学生スタッフ「チームたまモン」考案の、ゆめ工房（相原町）とお茶の富澤。（益城町）さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、同チームが今年度実施した熊本県益城町での活動紹介パネル展示を行った。

4. 学生参加者数 10 名

5. 参加学生の感想

ただクッキーを販売するのではなく、お客様に熊本での活動を伝え興味を持っていただけたため良かったと思います。被災地での活動はボランティアセンター外の学生の認知度は高くないので今回のような機会を利用し広めていくことは有意義だと思いました。

経済学部経済学科 2 年 川越 宗紀



多摩祭でのクッキー販売は今年で 2 回目でしたが、昨年同様、完売に終わって良かったです。今年は昨年も来たという方に出会えて、（残念ながら完売した後だったのですが）特に嬉しかったです。その方の『私は買えなかったけど、それは誰かが買ってくれたということだから良かったわ』という言葉が印象的でした。活動の大切さを実感できた瞬間でした。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2 年 海老沢 真由

大人の方が、売上のうちの 20 円分が被災地へ募金されると伝えたと快く買ってください、被災地を思う気持ちが伝わる良い活動でした。

社会学部メディア社会学科 1 年 太田 達也

チームたまモンとして多摩祭に出店するのは 2 度目ということもあり、みんなで要領よく準備し協力して当日は販売することができたと思います。今後も継続して、少しずつ東京からでもできる支援を増やしていければ良いなと感じました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 3 年 橋本 空



100 袋があっという間に完売した



経済学部棟 2 階にて販売

18. 第二清風園ハロウィンフェスティバル

1. 日 程 2019年10月27日(日)

2. 場 所 社会福祉法人賛育会第二清風園

3. 概 要

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて、ハロウィン祭りの運営補助を行った。参加学生は出店のお手伝いをし、アカペラサークルの「はもるぷ」が合唱を披露した。

4. 学生参加者数 13名

5. 参加学生の感想

今回2回目の参加でしたが、昨年よりも地域の方や施設入居者、子どもたちと関わることができたと感じました。飲食コーナーのお手伝いをしましたが、買いに来てくれる方々が笑顔でイベントを楽しんでいる様子を見て、ボランティア側も楽しく活動できました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 千田 佳奈



私自身今年でこのイベントには2回目の参加となりましたが、施設の利用者さんや地域のボランティアさん、学生から子どもまで幅広い世代が集まるととても良い雰囲気イベントだなという風に思いました。イベント当日も温かい雰囲気ですて迎えてくださり、私もとても楽しみながら参加することができました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

イベントへのボランティア参加は初めてだったので戸惑いがあり、積極的に参加できなかったことが反省点の1つだと感じました。また、施設の利用者の方々の方々の車いす移動補助も初心者だったので、かなりレベルが高く感じてしまい、子どものコーナーの手伝いに入れてもらったこともあり、もう少し経験を積むことが必要だなと感じました。しかし、子どもや親御さんとの触れ合いは、とても良い経験になりました。

現代福祉学部臨床心理学科1年 高島 夕季



アカペラサークル「はもるぷ」による合唱



みんなで仮装

19. 鶴川 de ハロウィンフェスティバル

1. 日 程 2019年10月27日(日)

2. 場 所 小田急鶴川駅前

3. 概 要

鶴川地区協議会主催イベント、ハロウィンフェスティバルに参加。

参加学生は受付や舞台、衣装準備、司会等の運営補助を担当し、地域の方々と交流を行った。

4. 学生参加者数 2名

5. 参加学生の感想

子どもたちが楽しんでいる裏では大人たちが頑張っていることを実感しました。子どもたちの喜ぶ顔が見られて嬉しかったです。 経済学部経済学科2年 川越 宗紀



20. 相原スポーツ広場 ～FUN DAY～

1. 日 程 2019年11月10日(日)
2. 場 所 相原中央公園 多目的広場2(スポーツ広場)

3. 概 要

町田市相原中央公園スポーツ広場で行われた子どもを対象としたイベントの運営支援として参加した。

学生は「キッズ走り方教室」のブースを担当し、子どもたちに正しい走り方を教え、50メートル走のタイム測定を行った。

4. 学生参加者数 5名

5. 参加学生の感想

私は受付を担当していたので直接走り方教室には関わっていませんが、子どもたちが楽しそうに腕の振り方や足のあげ方を練習する姿や、息を切らしながらも 50 メートル走を走りきったあとの達成感ある姿を見て、ほほえましく思いました。今までになかった層にボランティアとしてアプローチできてとても良かったと思いました。



現代福祉学部福祉コミュニティ学科 3 年 橋本 空

計画があまりできていなかったため、やりながら改善していきました。同じことを５回くらい行いましたが、子どもたちは毎回違う子たちなので、毎回完璧にこなすことはできませんでした。でも交流を通して親御さんとも話ができて陸上を楽しんでもらえたら良いと思いました。

社会学部メディア社会学科 １年 大島 瑞稀

社会学部メディア社会学科 1 年 大島 瑞稀



大勢の子どもたちと触れ合った



50メートル走のタイムを計る

21. -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 8 回地域交流会「竹カフェ」

1. 日 程 2019 年 11 月 17 日 (日)

2. 場 所 相原中央公園

3. 概 要

昨年度より参加している「竹あかりの街あいはら」の活動の一環として、地域の方々とともに竹灯籠を制作した。竹についてのワークと竹灯籠の制作作業に分かれ、全員にどちらの作業も体験してもらえるような企画を行った。

4. 学生参加者数 13 名

5. 参加学生の感想

8 回目となった今回は、初めて子どもたちが参加してくれました。ワーク自体も、作業が中心だったので、子どもも大人も楽しんでくれていたように思います。いつもとは違った年齢層が参加してくれたことが新鮮で、私たちにとてもたくさんの発見があった竹カフェになりました。屋外での開催で、不安な点もありましたが、天気も良く無事に当日を迎えることができて良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 4 年 鈴木 琴音

2 回目の参加でしたが、地域の方々和気あいあいとしながら活動できて楽しかったです。3 月も参加したいと思います。

社会学部社会学科 2 年 矢藤 日南乃

段取り通りにいかないことがあって少しあたふたした部分がありますが、どの世代の方も楽しんで参加してくださり、とても充実した一日になりました。外での活動も今後の竹カフェに取り入れたいと思いました。

社会学部社会学科 2 年 吉井 妙英

いろんな年齢層の方々とおしゃべりできて楽しかったです。高齢の方とお話する機会は多いけれど、子どもとあまり関わる機会がなかったので新鮮でした。初めてで、気のきかないところもあったと思いますが、優しく受け入れてくださり嬉しかったです。ありがとうございました。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 1 年 石川 嵯奈



小さな竹灯籠作り



竹灯籠オブジェクトの製作

22. イザ！カエルキャラバン！ inリンクス梶田

1. 日 程 2019年11月23日(土)
2. 場 所 社会福祉法人武蔵野会 リンクス梶田
3. 概 要

八王子市梶田町にある障がい者支援施設「リンクス梶田」にて実施された、防災イベントに参加。防災体験プログラムや受付、イベントの運営補助を行った。

4. 学生参加者数 15名

5. 参加学生の感想

小さいお子さんから大人の方まで、幅広い方に楽しんでいただきやりがいのある活動でした。また、参加者の方に防災について教えながら楽しみつつも、いざという時に役立つことばかりで、自分たちにとっても勉強となり、有意義な時間となりました。

経済学部経済学科2年 小森 滉太



事前に、万が一近隣で災害が起きたら危険になりそうな場所を把握したり、避難所でどう過ごしたら良いのかを知り、想像を膨らませておくことは重要であると思いました。実際に AED の使い方を学べる等、学生側も得るものが多かったです。また、子どもたちの笑顔にこのボランティアをする意義を感じました。今後は子どもたちにより興味を持ってもらえるよう、防災学習ゲームの内容を工夫していけたらと思いました。

社会学部メディア社会学科1年 今井 彩里衣



防災カードゲームを運営



災害時の対応をゲーム形式で体験した

23. 第13回市民協働フェスティバル まちカフェ！

1. 日 程 2019年12月1日（日）

2. 場 所 町田市役所2階

3. 概 要

町田市を中心に活動する団体が一堂に会するイベントに参加。学生スタッフが行う熊本支援活動を地域の方に知ってもらうため、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」と「かぶせ茶プリン」の販売を行った。今回は同じく被災地支援を行う玉川大学と共同でブースを運営し、クッキー200個、プリン180個を完売した。

4. 学生参加者数 11名

5. 参加学生の感想

まちカフェ！には『益城町を応援しなくっ茶プロジェクト』として3年前から出店していますが、3年目ともなると『今年は絶対買いたかったの〜』と、早めに買いにお越しくださる方もいて、イベント出店を継続することの意味をととても感じました。また今回は玉川大学の太田ゼミの方々と学生コーナーとして隣同士で出店させていただきました。陸前高田の物産と並ぶことにより私たちのブースも被災地支援だという点をいつもよりアピールすることができたと思います。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 橋本 空

お客さんに熊本に興味・関心を寄せていただき、とても嬉しく感じました。また、お客さんだけでなく、多くの出店側の人たちにも我々の活動を周知できる良い機会でした。今後も参加していきたいと思います。

経済学部経済学科2年 小森 滉太



プリンとクッキーを販売



多くの方にご来場いただいた

24. 学生ボランティア 2019 年度活動報告会

1. 日 程 2019 年 12 月 20 日 (金)
 2. 場 所 多摩キャンパス EGGDOME5 階 研修室 1.2

3. 概 要

多摩キャンパスではサークルやグループが多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では、「地域にスマイルを届けよう活動助成金」採用団体を含む 6 団体（越部ゼミ、チームたまモン、ごまちゃん、Team Tama Action Project、チーム気仙沼でつながら騎士、ボランティアセンター学生スタッフ）が活動内容、学んだことについて報告を行った。

4. 学生参加者数 9 名

5. 参加学生の感想

他学部でのゼミ活動の内容を知る機会はなかなかないので良い機会になりました。

経済学部現代ビジネス学科 2 年 石井 彰悟

今までどういう活動をしていたのか、あまり知らなかったので今回の発表で知れて良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 2 年 宮下 なつ

学生ボランティア 2019 年度活動報告会
 開催のお知らせ

2019 年 12 月 20 日(金)
 4 階(15:35~17:15)
 法政大学多摩キャンパス
 EGGDOME5 階 研修室 1.2
 登録生募集上

本ボランティアセンターでは、この 1 年のボランティア活動を振り返る場として毎年「学生ボランティア 2019 年度活動報告会」を開催しています。
 つぎましては学生たちの発表の場がある「報告会」を開催予定です。
 多摩キャンパスの学生たちが、往後どのようなボランティア活動を行っているのか知る貴重な機会です。ぜひ皆さまご来場ください。

総 評
 後援 財 団 氏 (多摩ボランティアセンター 共済会) 経済学部教授
 司 会 氏 (多摩学生生活センター 共済会) 現代福祉学部教授

報告内容
 本学学生サークル、学部生によるボランティア活動報告、質疑応答

報告予定者
 (多摩ボランティアセンター学生スタッフ (チームたまモン) 共済会) 現代福祉学部教授
 (ごまちゃん、越部ゼミ、Team Tama Action Project、チーム気仙沼でつながら騎士、ボランティアセンター学生スタッフ) 現代福祉学部教授

参加(聴講)したい方
 申し込みは不要です。
 報告会当日、会場に直接お越しください。

お問い合わせ先
 多摩ボランティアセンター (EGG DOME5 階)
 (TEL) 042-758-2273 (E-Mail) tama_vol@fpu.ac.jp
 (FAX) 042-758-2273 (TEL) 042-758-2273



越部ゼミの報告



Team Tama Action Project の報告



ごまちゃんの報告



終了後、参加者で記念撮影

25. 関東ボッチャ選手権大会

1. 日 程 2020年1月25日(土)

2. 場 所 町田市立総合体育館

3. 概 要

町田市立総合体育館で開催された、関東ボッチャ選手権大会に参加。学生は受付や審判などの運営補助を行った。大会は1月25日(土)～1月26日(日)の2日間かけて行われ、本学学生は1月25日(土)を担当した。

4. 学生参加者数 3名

5. 参加学生の感想

今回関東ボッチャ選手権において、審判補助や資料配布、障がいを持つ選手の補助等のボランティアを行いました。私は今までにボッチャの大会や体験会のボランティアを務めていましたが、今回はその中でも一番規模の大きい大会でした。私がお話しした人の中では、足に障がいを持つ方で群馬から電車を乗り継ぎ来た選手もいました。今大会は公式ルールに則り競技が行われ、選手と観客の表情はとても真剣でした。ボッチャは夏季に行われる東京パラリンピックの公式競技です。日本代表もメダルが有力視されています。しかし実際には知名度がとても低いのです。私はこれまでのボランティアを通し、障がい者をはじめりハビリ中の高齢者、幼稚園児・小学生、大人等ルールが簡潔であらゆる人が楽しめるボッチャの魅力にはまりました。今大会ではこれまでの経験を踏まえて主審も務めました。また以前お会いした方とも競技を通じた交流ができました。ボッチャは人と人をつなぐ良いツールであり、また生きがいにもなるスポーツだと私は思います。今後も町田でボッチャの大会・交流会が続きますが、後輩たちがボランティアを通して良い経験を得てくれることを願っています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 恩田 祐希



26. 学生ボランティア団体助成事業表彰式

1. 日 程 2020年2月6日（木）
2. 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

3. 概 要

学生スタッフチームたまモンが、熊本被災地支援ボランティア活動において、「学生ボランティア団体助成事業」に採択され、表彰式と懇親会に参加した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

助成金で表彰されるのは初めての体験で、とても緊張しました。表彰式の中で、選考された団体を説明するために、3つの団体が例として挙げられたのですが、その中に私のチームが入っていた時は驚きました。その後の懇談会でも、選考委員の方から、『皆さんの活動は』まさに地域交流の理想的な形』というお言葉をいただき、とても嬉しかったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 海老沢 真由



チームたまモンのメンバー



表彰状の授賞式に参加

27. 第6回大学生ボランティア写真展&イベント

1. 日 程 2020年2月15日(土)

2. 場 所 イオンモール多摩平の森

3. 概 要

多摩地区5大学・行政・社会福祉協議会と合同で、被災地活動パネルを展示するとともに、トークセッションや物産展に参加した。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

今回はトークセッションにおいて多摩地域の学生や住民の方々に私たちの活動を認知してもらえたと同時に、他団体の活動理念や課題を知る良い機会となりました。物産展の方も好調で、短時間で完売となったため、機会があればまた実施したいと考えています。

社会学部社会学科2年 児玉 務

他大学の方々がどんな活動をされているのか知ることができて良かったです。また、ミソスープの販売では、たくさんの人に興味をもっていただけたことがとても嬉しかったです。

社会学部社会学科1年 島岡 日和



三陸わかめ屋ムラカミさんの「MISO SOUP」を販売



お客様に丁寧に説明



被災地で活動する学生たちの報告会



他大学の学生とも積極的に交流